

【養蚕を題材とした授業を実践するための教師用手引き】

「養蚕」と「殖産興業」を関連づけた学習における教材開発にあたって



地域に継承されている伝統的な文化を授業で扱いたいと思いますが、教材開発といっても、何をどのように教材化したらよいか…

特に私自身が、この学区に「どのような文化」が継承されているのか、わからないので困っています。



氏神さまに七夕飾りを飾っている子どもたちと敬老会の人たち

まずは、子どもたちにお祭りに参加したことがあるか、何か地域にかかわる言い伝えを聞いたことがあるか聞いてみましょう。

もう一つは、地域のお年寄りや、長くその地域に住んでいる方に、お話をお聞きすることです。

地域には「区長会」や「敬老会」など、地域をよく知る人たちの組織や集まりがあります。また、氏神様を守る「氏子」と呼ばれる集まりなどもあります。そうした方々に地域の伝統文化にかかわるお話をお聞きしてはどうでしょうか。

一番大切なことは、どの単元で、なにを子どもたちに伝えたいかを、先生自身がしっかり持つことです。



子どもたちに、聞いてみたらいろいろなお祭りがあると答えてくれました。でも、「何のお祭り？」と聞いたら、答えられる子が一人もいませんでした。

伝統的な文化を教えるとむずかしく考えるより、子どもたちが知っているお祭りの「いわれ」や「思い」を、きちんと伝えて学習が、子どもたちには必要なんだなと感じました。まずは、何を私自身が伝えたいのか決め出せれば、地域に方にも相談しやすくなるというわけですね。また、知らないと困っているだけでなく、自分から学区の中を歩いてみることも必要なことなのですね。



道端にある道祖神

よいことに気付きましたね。

ふだん、何気なく見過ごしているものに、気づくことも多いと思います。先生自身が、目的意識を持って地域のことを勉強しだすと、地域の方々も「協力できること」がはっきりしてくるので応えやすくなり、学校の良きサポーターとして力になってくれるはずですよ。





この学習の小単元のタイトルは、「松代の養蚕と殖産興業のつながり」となっていますが、私が勤務する学区には、蚕や養蚕にかかわる事例がありません。

どうしたらよいのでしょうか？

蚕や養蚕にかかわる内容を直接学習で扱える地域は、今ではごく一部の限られてしまうのも事実です。しかし、視点を変えると、織物や漆器、陶器、木工など、その地域の特色を生かし扱える素材はたくさんあると思います。

食育の視点から、伝統的な郷土料理などを取り上げてみるのもよいでしょう。まったく同じ素材を扱わなくても、何か地域にかかわったものを窓口にして、自分たちが生活している地域の歴史や風土を学ぶ機会になるようにすることが大切です。



伝統文化という視点は、地域性が大きくクローズアップされるので、独自の教材開発が必要となり、教材研究にも時間がかかりますが、きっと、子どもたちは学習の過程で地域と深くかかわり、地域社会に参画する力をつけてくれると思います。ぜひ自分にしかない授業を創り上げてみて下さい。



学んだ活動を広めて行きたいと考えるのですが、社会などの教科と総合的な学習とのつながりをどう持たせればよいのですか。

今回の学習指導要領の改訂では、「言語活動の充実」が求められ、学習活動としては「習得」「活用」「探究」がキーワードとなっています。さらに、社会科では社会を形成する力と進んで社会に参画する力の育成が求められています。

地域の文化について学んだ知識をまとめ、それら知識を活用して、自分たちの生活する地域のこれからのあり方を考えると同時に、どのようにかかわっていったらよいかを探究する学習活動へ発展させるには、総合的な学習との連携も必要となってきます。そうすれば、社会参画の力もおのずと育成されていくでしょう。



社会科で学んだことを、地域の人たちに知ってもらったり、伝統を受けつないでいこうと地域の行事などに自ら主体的にかかわったり、これからの地域のあり方を考えて地域の人たちに提案したりというように考えていけばよいのです。



そうですね。

たとえば今回の養蚕の場合、社会科で殖産興業を中心として扱います。

子どもたちが生活する地域でも、同時期社会的な流れに対応した人々の動きが起きていたことや、この地域が殖産興業の先進的な役割を担っていた史実を社会科の学習を通して子どもたちは知ります。

その学習に加えて、「虫歌のお観音さん」として、地域に今でも地域で受け継がれている養蚕にかかわる神社やそこでのおまつりを再認識させることで、養蚕業を生活の支えとしながら山間で生活していたこの地域の方々の思いに子どもたちが触れる場を設定します。

この学習を通して、子どもたち自身が地域の神社に興味を持ったり、祭りに参加したり、地域に残る文化財を大切に守っていこうとする心が意欲していくと思います。

さらに、自分たちの学習成果を新聞にして地域に知らせたり、地域パンフレットを作ったりして他地域の人たちにねも知ってもらったりと、活動の幅も広がります。

蚕のように伝統文化を扱うと、学習の中で蚕の飼育をすることになったら、神社のまつりへ参加することになったら、宗教上の問題や虫が苦手な子がいるというように、実際的な心配が発生しますが…



確かに、現実には生活様式も昔とだいぶ違っているため難しい面はありますね。しかし、自分の地域にはこんな伝統文化があったんだとか、こんな場所はこんないわれがあったんだということ、さらには、それがこの地域の特色なんだと子どもたちが知ることが、多様性を認めるという視点からの大切な学びでしょう。

また、何気なく生活している地域の歴史に触れることは、その土地への愛着を育むきっかけにもなりますね。

また、宗教上の理由で活動に参加できなくなる子どもがいる可能性もあるので心配な面はあると思いますが、あくまでもまつりに参加することは最終目標ではないことを明確にすることで、学習は成立すると思います。

学習のねらいは、地域の伝統や文化を知ることと、それを受け継いでいる人々の願いや思いに触れることを通して、目に見えにくい人々の思いや努力や苦心に気付かせ、自分たちもその担い手になっていくという意識や自覚を養うことです。まつりへの参加等の最終決定は、子どもたちにまかせさせたいものです。

教材研究をしようと思っても、歴史的な事実や、数値的なデータなどの資料が不足して、なかなか教材化することができません。

どのようにして、それら内容を調べればいいのか教えて下さい。





今はインターネット上で公開されている情報も多いので、ある程度の事項については、簡単に調べることができます。

しかし、注意してほしいことは、その情報の信ぴょう性です。だれが公開しているものなのかを、きちんと確認することが大切です。

基本的な調査方法としては、県史、郡史（誌）、市町村史のような公的機関が編纂したものをまず調べてみましょう。

統計的な資料は、国や都道府県、市町村等の行政機関に問い合わせたり、図書館・博物館のレファレンスを利用することもひとつの手段です。

他には学校の記念誌（史）や地域の記念誌（史）などからもその時々データを導き出すこともできます。

本などは探す手間がかかり大変かも知れませんが、慣れてくると案外楽しく教材研究が進められますし、そうした手間をかけている教材ほど教師の熱意も子どもたちに伝わり、深い学びになっていくと思います。

たとえば、養蚕を例にするとどんな活動が展開できるか教えてください。



養蚕に関する展開は、低学年の生活科から6年生ぐらいまでつながりを持った展開が期待できます。活動を項目的にあげますので社会科や総合的な学習とつなげてみて下さい。

- ① 桑グミを食べよう。桑グミをジャムにしよう（1・2年）
- ② 100年前の暮らし
（養蚕が盛んだった地域。今も残る蚕室や養蚕に関わる品々）（3年生）
- ③ 自分たちでも蚕を飼ってみよう。（3・4年生）
- ④ 地域の産業（昔と今の産業の違い）（5年）
- ⑤ 稲作（田鯉農法と養蚕のつながり）（5年）
- ⑥ 殖産興業と地域の産業のつながり（6年）

この続きは「学習展開例」や「活動に関する調理」などを参考にしてみてください。

養蚕に関わる一連の学習展開例



以下の図は、養蚕に関係する一連の学習活動の展開例です。学習の最初及び途中にこのような展開例を作成しておくことで、どのような場面にも対応できそうですね。

【社会科関係】

地域の歴史（昔の産業）

- ・ 稲作、畑作、養蚕
- ・ 地形や機構の特色との関連
- ・ 藩の特産品

今も残る養蚕の道具

- ・ 養蚕に使われた道具をさがそう
- ・ 養蚕をしていた人の話を聞こう
- ・ 養蚕農家の家の造りを調べよう

殖産興業と地域のつながり

- ・ 富岡製糸場と地域とのつながり
- ・ 六工社の設立
- ・ 和田英の活躍
- ・ 輸出品としての生糸
- ・ 富国強兵と殖産興業のつながり

戦後の輸出品の変化

- ・ 日本の貿易の特色
- ・ 生糸から化学繊維へ
- ・ 輸入品と輸出品の特色
- ・ 今後の世界とのつながり
- ・ これからの日本

この地区に残る養蚕の歴史

【総合的な学習や行事関係等】

地域に残る祭りや神社

- ・ 神社の歴史を調べよう
- ・ 祭りが行われる意味
- ・ 祭りの行われる時期
- ・ 農業と祭りの関係

昔から伝わる地域の行事

- ・ 神社のお祭り
- ・ 庚申祭り
- ・ 春、夏、秋祭り
- ・ どんど焼き
- ・ 節分

田鯉農法で米作り

- ・ 無農薬栽培
- ・ 鯉の飼育
- ・ 鯉の捕獲
- ・ 鯉の味付け
- ・ 鯉の甘露煮販売

蚕の飼育体験

- ・ 田鯉の餌
- ・ 桑の葉集め
- ・ 桑の実ジャムの作ろう
- ・ 桑の実ジャムの販売
- ・ 桑の葉天ぷらを食べよう

受け継ごう！ 地域の行事と祭り

- ・ 行事の説明書作成
- ・ 行事参加への呼びかけ
- ・ 神楽の練習
- ・ 祭りの準備

使用資料

授業では、いくつかの資料が必要になります。

- ・教師が与えたいという資料
- ・子どもにとって必要な資料
- ・子どもの追究に欠かせない資料
- ・子どもの学習意識に沿った資料

それら資料は、入手しやすいものもあれば、かなり入手がむずかしいものもあります。図書館等の書籍等がもとになる資料は基本ですが、実際に教師自身が現場に行って聞きとり調査等したことをもとにした資料など、状況に応じて工夫が必要です。

また、提示方法も素データのままがよいのか、教師が加工したものの方がよいのか、子どもたちの実態にも応じて異なってきます。今回の場合、以下の資料を集めてみました。



取り上げる主な素材とその概要(養蚕に関わって)

①虫歌観音

[信濃三十三観音霊場 七番 真言宗 虫歌山桑台院 虫歌観音 千手観世音菩薩]
381-12 長野市松代町豊宮字宮崎 6531-1 0262-78-3967

第7番札所で、蚕の観音様として知られる虫歌観音があり、養蚕農家の信仰を集めてきた。

孝謙天皇の御代、行基菩薩が当地に巡錫された時、天蚕が桑の大木の葉を食い尽くした後に一首の和歌があった。「ただ南無たのむ木のもここなればあめをもらさぬ誓いとぞしれ」と記されているのをご覧になり、不思議を感じ、この桑の木から三体の千手観音を彫られた。その一体を安置し、虫生田山桑台院引虫寺と称した。養蚕守護と産業繁栄及び万民至福を祈る霊場とし「虫歌観音」と呼ばれている。

観音堂の前にはこのような説明書きがある。

虫歌の観音さま 養蚕守護の観音堂

松代のはずれ平林村で養蚕を仕事にしていた一人の若者がおりました。ある日のこと、別所や布引の観音様へお参りをした後、地藏峠にさしかかったところ、眼下の平林村の方からにも怒鳴にも似たうめき声が聞こえてきました。軒先に干してある繭の中のさなぎの苦しみの声でした。若者は自分たちの生計を潤してくれる蚕のさなぎの霊を慰めてやらねばと、近くの山腹に観音様を安置しました。後に「虫歌観音」と呼ばれ、養蚕家の人たちがこぞってお参りに訪れ、養蚕守護の観音堂として栄えました。



▲虫歌観音



▲虫歌観音のいわれが書かれた表札

②皆神山の感謝祭

皆神山の山頂にて蚕に対する感謝の祭りが行われていたが、ここ数年は養蚕のためだけの祭は行われていない。

農業にかかわる一般的なお祭りは、春祭りが4月17日に、秋祭りが10月9日に行われる。



[皆神山祭]



◀ 皆神神社から配られた
養蚕神のお札 ▶



現在の豊栄小学校区と皆神山▶



③太郎山の社

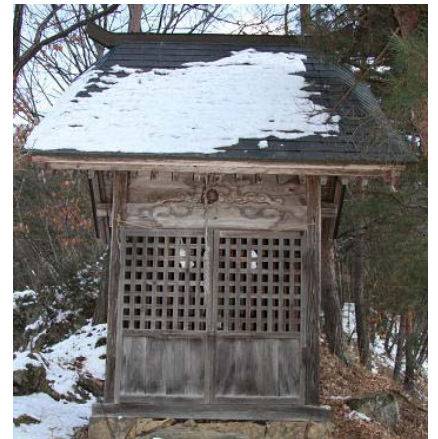
豊栄赤柴にある蚕の霊を祀る社。

現在では祭りなどは行われていないが、10年ほど前までは5月3日に地域の人々が蚕の霊を慰めるために祭りが行われていた。



◀ 太郎山

太郎山の社 ▶



④和田英（わだえい）

長野県埴科郡松代町（現・長野市松代町松代）に横田数馬の次女として生まれる。

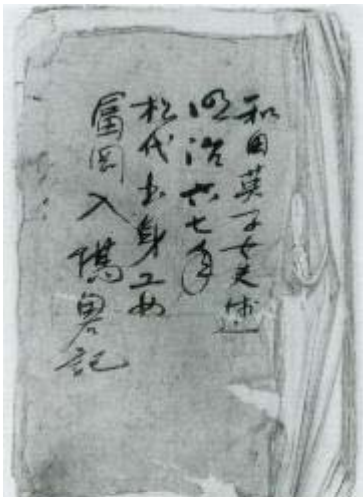
弟は秀雄（横田正俊の父）・謙二郎。（旧姓名：横田英）

1873年、16人の女工とともに富岡製糸場へ。

1874年、長野県埴科郡西条村（現・長野市松代町西条）の六工社の事業開始に伴い富岡製糸場を退職し、六工社指導者へ。

1878年、長野県宮製糸場の開設により、「製糸教授」となる。

1890年、和田盛治と結婚。製糸工場から離れる。



◀ 「富岡日記」

盛治の死後、富岡製糸場での日々を回顧して「富岡日記」を著した。



長野県製糸場

中央に立っている女性の左側が
横田 英 ▶

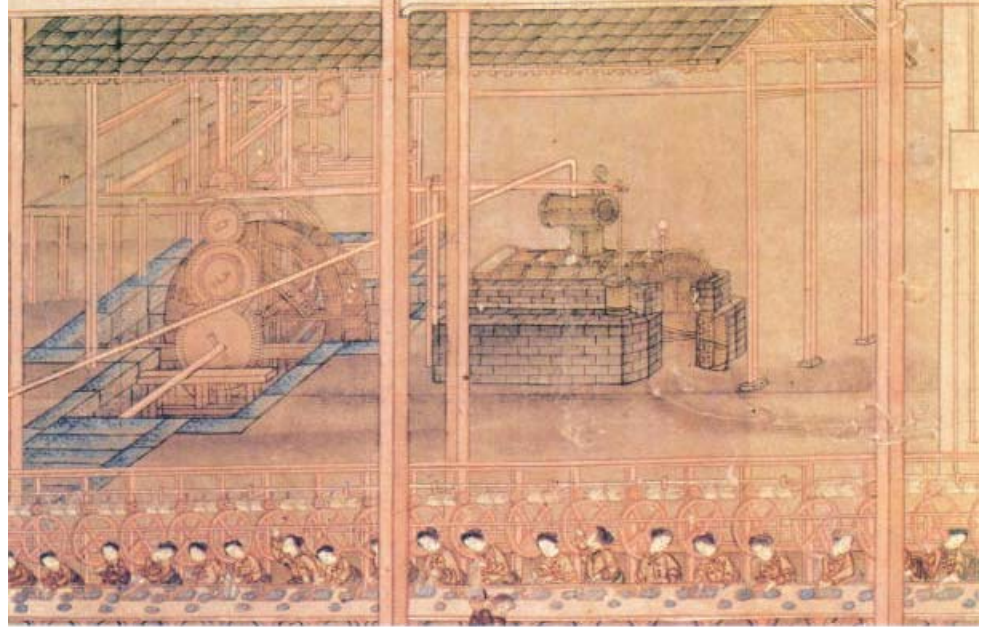
（長野市立博物館資料より）

⑤六工社

1874年（明治8年）大里忠一郎らが官営富岡製糸場にならい2月に建設を開始。和田英（当時は旧姓の横田）らが富岡製糸場から戻り、8月に創業を開始。

六工社（ろっこうしゃ）は、長野県埴科郡西条村（にしじょうむら）（現在の長野県長野市松代町西条）六工（ろっく）に位置した国内初の民間蒸気製糸場。

信濃国埴科郡西条村六工製糸場之図（部分）
（長野県歴史館蔵） ▶



六工社跡地の碑 ▼

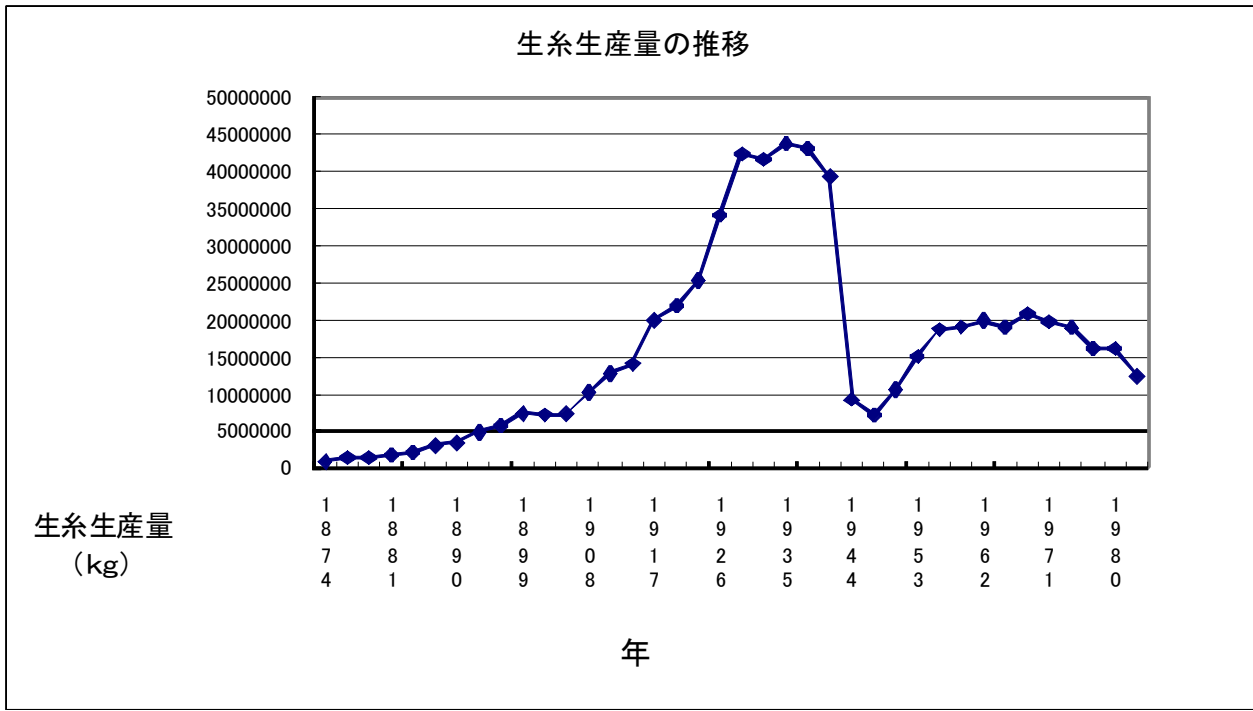


六工社商標 ▶
（横浜開港資料館蔵）

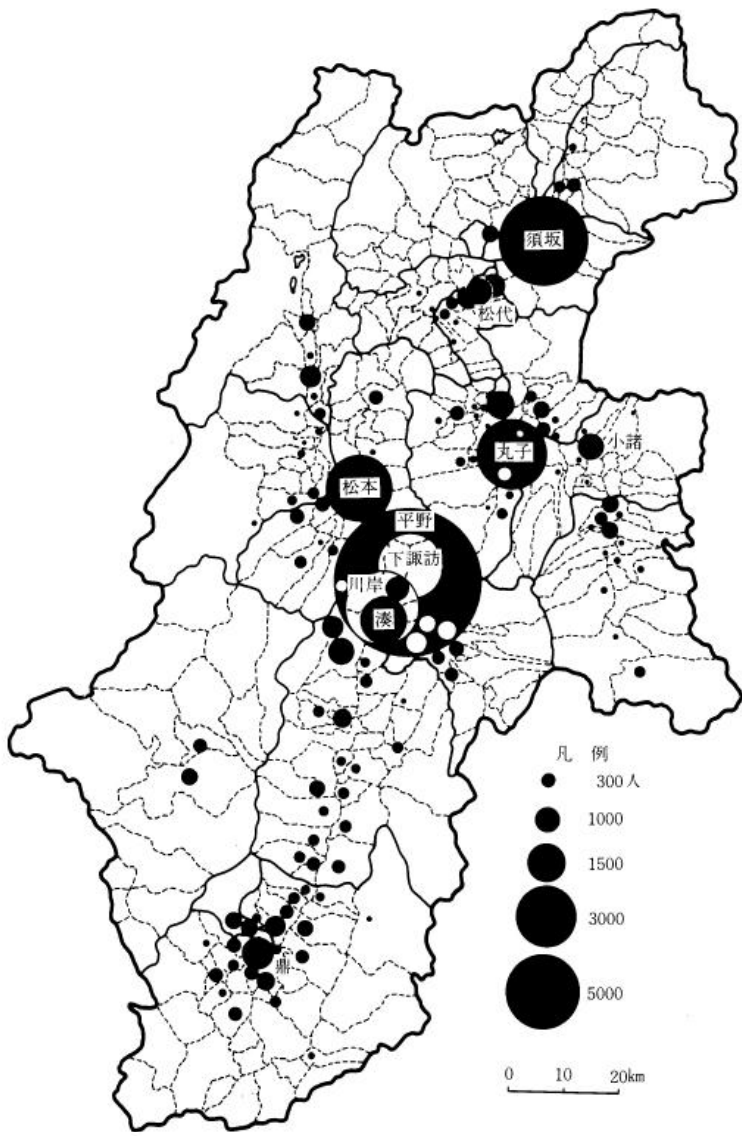


▲ 東条尋常小学校横にあった窪田館製糸場（昭和4年）
手前が東条尋常小学校（現長野市立東条小学校）
奥の煙突のある建物が窪田館製糸場

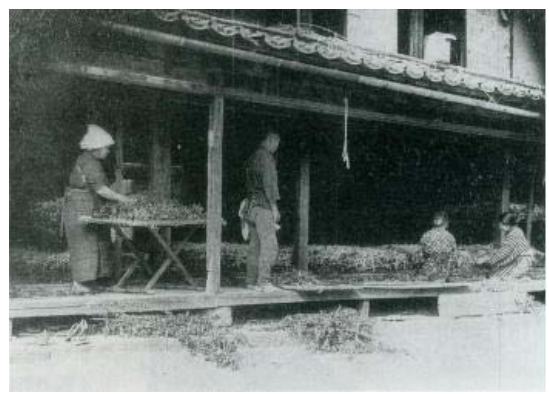
◀ 生糸生産量推移グラフ (日本全国)



◀ 大正4年における製糸工業の分布 (長野県史より作成)



給桑風景 ▼



副読本を作ろう

資料が集まったら、子どもたちが楽しく授業をしたり、自分たちで学習を進めたりするための副読本を作ってみましょう。

わかりやすい内容や、興味関心を引くような記述、次の学習への足がかりや参考になるような副読本を用意しておくといでしょう。

ポイントは

絵や写真を使い興味関心を高め、様子が分かること。

長い文にはしないこと。

興味の流れを意識して作成すること。

(予想される使用資料一覧)

- ・各地区の神社や祭り…どんど焼き、虫送りなどの行事の写真
- ・虫歌観音…祭りのVTR（1月17日と5月）や太郎山の養蚕に関わるものの写真
4月17日と10月9日の皆神祭の写真
- ・虫歌観音で祭りをを行う人々の思い…JA豊栄支所の武田さんと養蚕を続けている神戸啓助さんの話
のVTR
- ・地図（学区地図）
- ・養蚕に係る道具（実際に農家などからお借りしたり学校にある物を使う）
- ・六工社跡地の写真（松代西条地区）
- ・六工社で働く人々のようすの絵の写真…長野県歴史館蔵
- ・松代の航空写真と地形図（地図）
- ・和田栄の略歴と写真…長野県歴史館・真田宝物館
- ・当時の富岡製糸工場の絵や写真…富岡製糸場資料
- ・松代の蚕糸出荷額のグラフなど（明治から大正にかけて）
…長野県史・蚕糸業（1980）・松代町史（1987）・長野縣の特殊産業（1933）
・信濃蚕糸業史（1975）

【副読本】

～松代の養蚕と殖産興業のつながり～



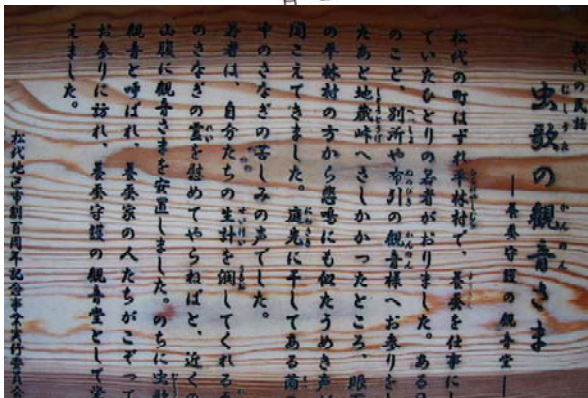
私たちの地域にはどんな神社やお祭りがあるのかしら。



ぼくの地区には、春と秋に近くの神社でお祭りをやっているよ。屋台も出るよ。



地域には昔から伝わるお祭り神社があるね。どんな歴史や人々の願いがあるか調べてみましょう。



虫歌観音



太郎山の社

松代地区には蚕をまつる「虫歌観音」という文化財があります。どんな歴史や地域の方の思いがあるのでしょうか。

この地区は昔、養蚕が盛んだったらしいわ。

家には蚕を飼っていた場所や、蚕を育てる道具が残っているよ

そういえば、今も地域には「桑根井」など蚕と関係する名前が残っているね。

おばあちゃんも蚕の世話をしたそうよ。

何で松代は、養蚕が盛んだったのかな？調べてみようよ。



産業が盛んになるには、土地の様子や気候、原料の産出とそれを加工する場所や作られたものが消費されたり必要とされたりすることが大きな理由として考えられるね。そんなことをポイントにして学習を進めるといいね。

松代は蚕の餌となる桑がたくさんあったようだよ。

六工社という蚕の繭から生糸をとる工場が松代にあったらしいよ。

蚕が作るマユからとれる生糸はとてもいいお金になったので、蚕のことを「御蚕様」と呼んでとても大切にしていたらしいよ。

多くの家庭で蚕を飼っていたらしいよ。蚕を飼う部屋は別になっていて、近くの家でも飼っていた場所が今でも残っているよ。

六工社は誰がどんな目的でつくったのかな。

六工社の歴史や、つくられた目的について調べてみましょう。



六工社跡の碑

富岡製糸場の様子を見本にしてつくられたらしいわよ。

六工社は、1874年に松代の西条にできた製糸工場らしいよ。

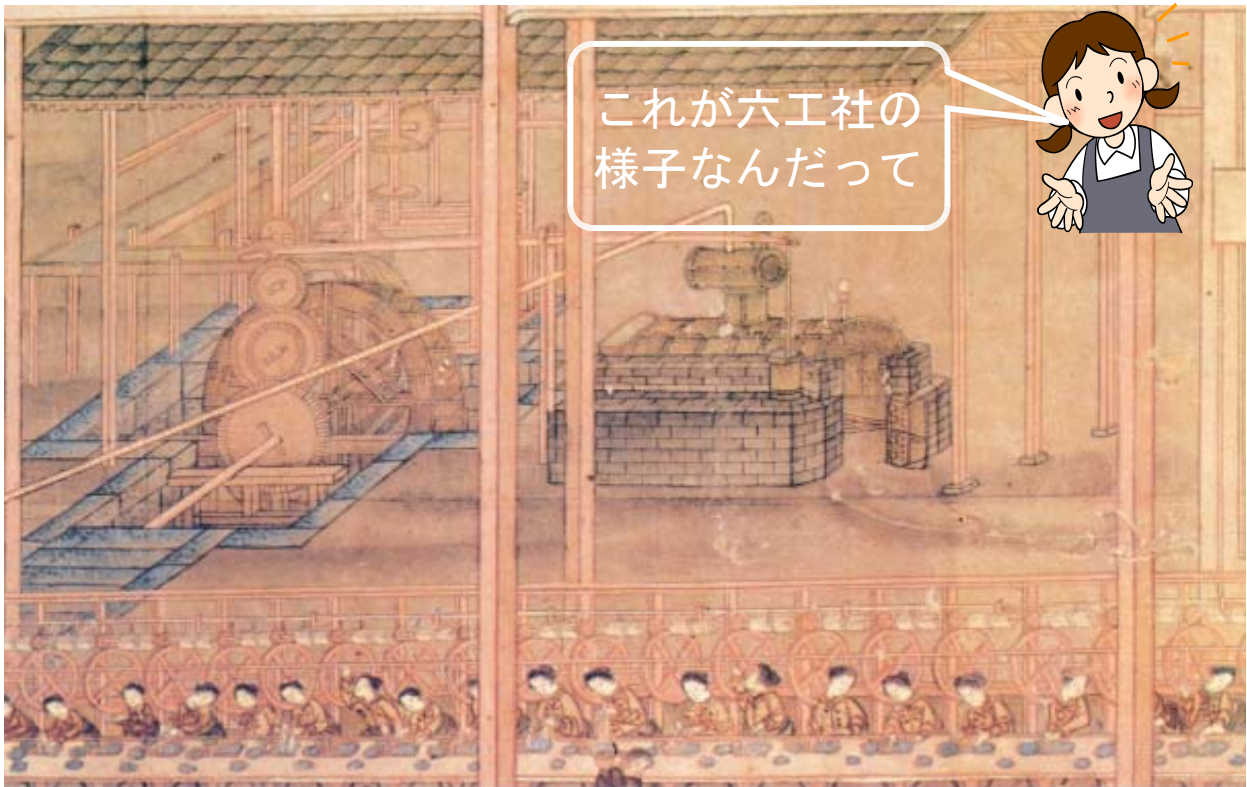
富岡製糸場は官営工場として日本の経済発展に役立ったそうよ。

松代に生まれた横田英という人が中心になっていたらしいよ。



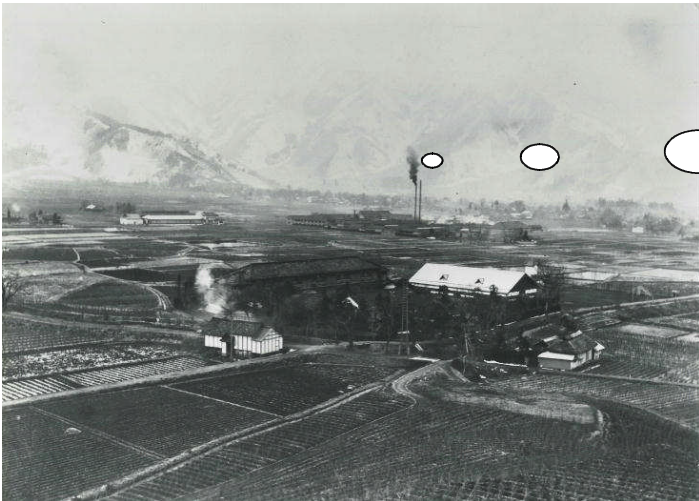


みんなが調べたように、富岡製糸場は官営工場として生糸の生産で日本の経済発展に役立ちました。六工社も富岡製糸場と同じように長野県内の生糸生産の発展に役に立ちました。日本が世界と並ぶためには経済を発展させることが大切だったのです。その六工社は、大里忠一郎らが官営富岡製糸場にならい建設を進めました。和田英（旧姓横田）らが富岡製糸場から戻り、操業を開始しました。松代町西条の六工（ろっく）に位置した場所に設置された、国内初の民間蒸気製糸場なんだよ。こんな場所が日本の先進的な役割を果たした時期もあったなんてすてきなことだと思いませんか？

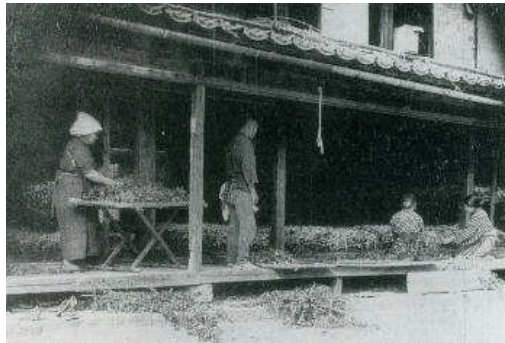


これが六工社の商標か！たくさん輸出されたんだらうな？





東条小学校の
近くにあった
窪田館製糸場
(昭和4年)



養蚕が盛んでない今でも、なぜ虫歌観音で祭りを行ったり、地域の人々が大切に建物を守ったりしているのだろう。

こんな風にして、蚕を飼っていたんだ！でも、今では見る事ができないね。

養蚕がほとんど行われていないのに、どうして虫歌観音では今でもお祭りをやっているのかな。

養蚕のおかげで、この地域の人々はみんな豊かに生活ができたので、今でも大切にしているんじゃないかしら。



いまでも、こんなお札が皆神社から配られているらしいよ。だから、蚕の恩を忘れないようにするために、今でも大切にお祭りをやっているんじゃないかな。



地域の人々が今でもここで生活できるのは、蚕のおかげだということを忘れないために、多くの人々が関わって今でも祭りを続けているんだね。蚕を飼わなくなった今でも、蚕への恩を忘れずに、そして自然の恵に感謝することをこの地区の人は忘れずにやっているということだね。

学習指導案

資料と副読本が揃ったら、いよいよ授業の具体的な計画を立てましょう。

学習指導案や板書計画、そして子どもたちの学習の足跡が読み取れる学習カードなどを準備しましょう。

今回は6学年「社会科」と「地域の伝統文化」、「養蚕」を結びつけ地域から日本全国の動きが分かる、又は日本の動きが地域にも影響を及ぼした例として授業を考えてみたいと思います。

小学校6学年 学習指導案(単元展開例)

単元名をつけましょう

1 単元名 「富国強兵と殖産興業」

小単元「松代の養蚕と殖産興業のつながり」

柱になる内容を書きましょう

2 単元の概略

養蚕が盛んであった長野県の中でもとりわけ製糸工場の建設が早く、長野県の殖産に役割を果たした人物(和田 英)と、その人物が起こした工場(六工社)や、現在も伝わる養蚕に欠かせない桑に関連した地名(桑根井など)、そして、養蚕に関連する文化財としては珍しい施設(虫歌観音)などに関連させて学習することを目的としたい。地域における養蚕がいかに昔から盛んであり、地域発展や人々の生活を支えるのための貴重な収入手段であったかを知るとともに、松代地区が明治の政府方針「殖産興業」の影響を大きく受け、群馬の富岡製糸工場と関連を持っていた事実を知る。

学習指導要領をもとにつけるべき力を明確にしましょう

3 伝統・文化等に関する教材化の視点(つけるべき力)

- ①殖産興業が地方にどのように波及していったか、また地方の隆盛が国に及ぼした影響について考えることができる。
- ②松代でなぜ養蚕業が盛んになったか、地形・気候等の自然条件や人的なつながりなどからとらえることができる。
- ③養蚕に関係する文化的な施設や祭りが存在それらを伝承させている事実を知ったり、当時の人々がいかに蚕を大切に思っていたのかを考えたりすることで、自分たちもそうした文化を伝承しようとする気持ちを持つ。

単元の流れを考えましょう

4 小単元展開の大要(全7時間)

第1時：地域に残る農耕文化と養蚕に関わる存在があることを知る。

第2・3時：地域の養蚕の歴史の事実を知る。

(虫歌観音の存在と六工社、地域の桑畑の存在)

第4・5時：地域産業の隆盛と国の政策の関連を知る。

(和田英・富岡製糸工場・殖産興業・地方が全国に果たした役割)

第6・7時：養蚕がしだいに廃れてきたにもかかわらず、現在もその観音を大切にしている地域の方々の思いを知る。

5 単元展開概要

単元の流れを具体的に考えていきましょう

時	主な発問・学習活動・指示	指導のポイント
1	自分たちの地区にはどんな神社や、そこで行われるお祭りがあるのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にある神社やお祭りを発表する。 ・お祭りはいつ、何のために行われるのか話し合う。 ・農業と神社の関係について知る。(神社や祭りが生活や仕事と密接に結びついていることを) ・明治以降盛んに行われていた産業「養蚕」に関係ある文化財が松代にあることを知る。
2 3	自分の地区には養蚕に関係する場所や物、お祭りなどは残っていないのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に養蚕に関係する場所や地名は残っていないだろうか。 ・「虫歌観音」の存在やそこで行われるお祭りを知る。 ・なぜ養蚕に関係する文化財があるのだろうか。 ・地域に行われていた養蚕の歴史を、物や地名等から知り、養蚕が盛んだった事実を知る。 ・家庭にとって蚕はどのような存在だったのだろうか。 ・どのくらい家庭が養蚕を行っていたのだろうか。
4 5	六工社がなぜ松代に設立され、どのような役割を果たしたのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・養蚕が盛んになった背景について環境や地理的条件などについて考える。 ・松代に六工社が設立されたのは、なぜだろう。 ・松代の生糸生産の推移について知る。 ・和田英と富岡工場のつながりを知る。 ・和田栄と六工社とのつながりを考える。 ・富岡製糸工場と日本の殖産興業の富国強兵制度の関係について学ぶ。 ・日本の近代化政策と殖産興業のつながりを知る。
6 7	製糸業は衰退し、松代でも全く養蚕が行われない状態になった現在でも、虫歌観音を地域の人々が大切に保存し、祭りを開催している願いを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・松代の製糸業が衰退した理由を調べさせる。 ・松代の製糸業は、世界の経済の動きと密接につながっていたことに気づかせる。 ・蚕糸業が衰退しても、地域で虫歌観音を大切にしている理由は何かを考える。 ・養蚕の衰退で虫歌観音の役割が薄らいだ現在でも、地域の人々によって祭りが大切に守られている意味を考え、これからも伝統を受け継いでいこうという心を育てたい。

☆単元展開が完成したら、1時間ごとに「学習指導案」を作成してみましょう。

学習の大きな流れが完成したら、次に学習問題を中心に、子どもたちの発言や追究活動を予想しながら、1時間単位の指導案をていねいにつくることが大切です。

【板書計画で必要な事柄】

このほかに板書計画を大まかにつくっておくことも大切です。

- ①授業の流れや学習したことが分かるように板書していく。
- ②大切な言葉やポイント、学習問題などはフラッシュカードなどを用意し板書に組み合わせる。
(色画用紙などだけでも用意し、その場で記入していても良い。)
- ③結論が分かるようにしておく。(1時間で学んだ内容がわかるようにしておく。)
- ④次時や単元での足取りをクラスで分かるようにしたければ、黒板に書くのではなく模造紙などを貼っておき、マジックで記入して授業後に教室に掲示するなどしておく。次時以降も使いやすい。(準備品：模造紙・色画用紙・マジック・マグネット・セロテープなど)

学習カードの作成例

学習カードで子どもの意識や、思考の過程、定着などを把握することができます。

学習カード

名前 _____

《1時》

<p>自分たちの地域にはどんな神社やお祭りがあるだろう。</p>	
<p>予想</p> <p>まずは予想を立てさせること</p>	<p>結果</p> <p>そして結果について記入させる</p> <p>ここでは単元の導入ですから大きな発想で自由に記入できるように工夫しましょう</p>
<p>予想を立てそれについて学習を進めていくことは、主体的に学習を進める上で大変有効である。</p>	
<p>お祭りは何のためにやるのだろう</p> <p>これから調べるお祭りの基本的な考えを押さえる</p>	<p>神社はなぜあるのだろう</p> <p>神社はよく見かけるが、その意味についてはなかなか考えられないかもしれないので、子どもたちにとっては案外難しい内容でもある。しかし、この質問は単元の流れでは重要な位置を示す。</p>
<p>基礎基本に関わる部分で、本時どんな知識理解が定着したか、又はここで押さえ直す意味もある</p>	
<p>【本時の復習】</p> <p>①日本人は農業がうまくいくために色々な（ ）様を大切にしてきた。</p> <p>②（ ）はその神様を祀^{まつ}ってある場所である。</p> <p>③日本人は、農業がうまくいき、作物が多くとれるように農業が始まる（ ）と収穫時期である（ ）に神様に（ ）と（ ）の気持ちを込めて神社でお祭りを行うようになった。</p> <p>④松代町には、農業の中でも（ ）に関係した文化財がある。</p>	
<p>本時の感想・更に学習したいこと</p> <p>最後は自由に感想や意見等を書かせることで次の授業の手がかりをえやすかったり、本時の見返しを教師自身がしやすい</p>	

《2・3時》

自分の地区で蚕に関係した地名や物・お祭りなどはあるのだろうか。

予想

結果

簡単な疑問や質問などから子どもたちの意識を本筋に向かわせていく



虫歌観音はいつからあり、何をまつているのだろう。

虫歌観音と、蚕のつながりを考え合わせたい

蚕は地域の人々にとってどのようなものだったのだろう。

人々の願いや思いがあって、祭りは続いてきている。それを続けてきた背景には蚕への何かしらの思いがあるがそれを推し量りたい

地域ではどのくらい家庭が養蚕を行っていたのだろうか。

生活の中に養蚕がしっかりと入っていたことを考えさせていく発問である

【本時の復習】

- ① 虫歌観音は（ ）をまつた文化財である。
- ② この地区は昔（ ）業）が大変盛んだった。
- ③ 今もなお、地域に（ ）という養蚕に関連した地名が残り、農家では養蚕に使われた道具や（ ）と呼ばれる蚕を飼育していた場所が残る家も多い。

本時の感想・更に学習したいこと

《4・5時》

松代は、なぜ養蚕が盛んだっただろう。

予想

松代の地域性（地形や風土）と養蚕をつなげていきたい

結果



六工社はなぜ松代に設立されたのだろう。

自然環境だけでなく、それを生かした人々の思いが六工社につながっていくを考えさせたい

松代の生糸の生産量はどのように変わっていったのだろう。

六工社の存在が松代の生糸生産に大きく貢献したことをつかませたい

六工社を設立した和田英とはどのような人物だったのだろう。

発展した陰には、尽力した人物が必ず存在するその人の願いを子どもたちに考えさせたい

富岡製糸工場とはどのような施設だったのだろう。

国が進めた官営工場と殖産興業が自分たちが住む地方の松代とつながっていく内容である地域から徐々に一般化（国レベルで考える）することは大変重要である

【本時の復習】

- ①松代は周りを（ ）に囲まれ、（ ）の氾濫ほんらんもあったため、（ ）にはあまり向かない地域だった。
- ②蚕のえさとなる（ ）が確保でき、養蚕に向いていた。
- ③蚕から生糸をとる（ ）という施設が松代で設立された。
- ④六工社は松代出身で富岡製糸工場とみおかせいしこうじょうで技術を学んだ（ ）によって設立された。
- ⑤富岡製糸工場は（ ）県にあり、国によって設立された（ ）工場）であり、国の経済力を他の国と同じように豊かにするために設立された。

本時の感想・更に学習したいこと

この「復習問題」で本時押さえない知的部分（知識理解の基礎基本部分）を押さえるようにする。

繭玉をつくろう

お正月が終わると各地では小正月の行事が行われます。お正月に各家庭にお迎えした神様をお送りする神送りの行事が「どんど焼き」です。

どんど焼きではお正月に飾ったしめ飾りや、昨年のだるま、御札、書き初め等を燃やしますが、お餅や繭玉をそこで燃やして食べると一年中健康でいられるといういいつたえもあります。

ここでは、蚕と関係がある「繭玉」づくりを紹介します。

【準備品：米粉(上新粉)・砂糖・食品着色料(2～4色)・醤油・柳の枝(または針金)】

※柳の枝より細い針金を使うと燃えたり折れたりする心配もなく上手に焼くことができます。



上新粉にお湯を入れます



よく混ぜます



かたまりになるくらい混ぜる



着色料を練り込みます



蒸かしに入れ蒸す準備をする



約20～25分蒸す



搦り鉢などでよくつきます



よくこねます



丸く丸めます



柳(針金)の枝に丸めた繭玉をつけます



どんどん焼きへの点火を待ちます。



炎が消え、おき火になったら繭玉を焼き始めます。



全体に火が通るようにしましょう



やけどに気をつけて食べましょう

桑の実ジャムをつくろう

養蚕に関係した食べ物というと、蚕のさなぎと蚕の餌となる桑に実る桑の実「桑グミ」を利用したものがあります。ここでは、ポリフェノールたっぷりの「桑グミ」で作るジャムを紹介します。

【準備品：桑の実・砂糖・レモン汁（またはクエン酸）・保存する場合は容器・ラベルシール】

※桑の実は傷みやすいので、すぐにジャムにするか、冷凍し後日調理するとよいでしょう。



桑の実をつぶさないように収穫します



1つつ軸を切って取り除きます



砂糖の重さを量る



焦げないようにかき混ぜ、煮詰める



とろみが少し出たら火を止め完成



瓶詰め後脱気し、ラベルを貼り完成！

鯉や鮒の調理

長野県は養蚕が盛んだったので、その蚕のさなぎを鯉や鮒の餌にすることがありました。佐久に伝わる田鯉や田鮒農法もそうした蚕のさなぎを鯉の餌として与えていました。鯉や鮒に脂がのっておいしくなるためです。ここでは、田で飼っていた鮒の甘露煮作りの様子を紹介します。

【準備品：鯉や鮒・砂糖・醤油・みりんか酒】

※鯉や鮒は田からあげた後、しばらく泥を吐かせてから調理すると臭みがとれます。



田に鮒を放流



繭と蚕のさなぎ



酒と醤油を入れた鍋に鮒を入れる



1時間ほど経ったら砂糖を入れる



灰汁を取りながら鍋で煮る



鮒の甘露煮の完成！！